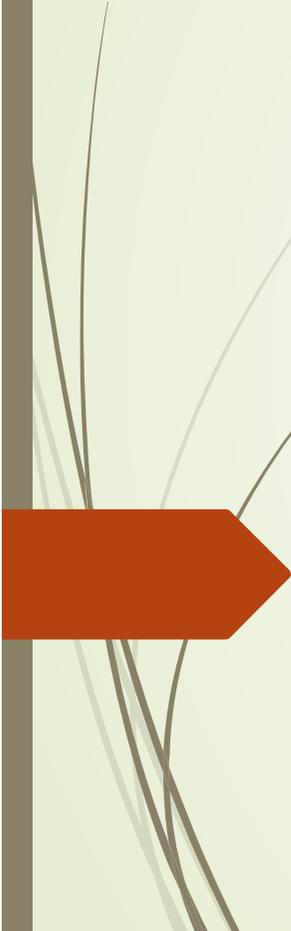


パキスタンの大学における英語、ウルドゥー語教育の現状 －現地調査報告－



科研 基盤研究B「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」（研究代表者：富盛伸夫）【2014年6月6日 第9回研究会】

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
萬宮健策



本報告の内容

- ▶ パキスタンの教育の現状と課題
- ▶ ウルドゥー語、外国語に対する国民の意識
- ▶ カラチ大学、パンジャーブ大学における英語教育、ウルドゥー語教育の状況（出張報告）



1947年英領インドから独立

教育に関する基本情報

識字率（15歳以上の男女）：54.9%
 男性68.6%、女性40.3%（2009）

義務教育：なし

小学校5年 + 中学校3年 + 高校2年
 →Matriculation（メトリック）

カレッジ2年 →Intermediate
 ユニバーシティ（専門課程）

マドラサ（モスクに併設される寄宿制（原則無償）の学校）：現在は宗教省の認可制

公立初等学校では、原則として男女別学

教育言語：英語（多くの私立学校）もしくはウルドゥー語（多くの公立学校）

必修科目：ウルドゥー語、英語、算数、理科、社会、イスラーム学（+地域言語）

国語ウルドゥーに対する国民の意識

- 国民統合の象徴としての「国語」ウルドゥー
 - →分離独立時、インド亜大陸で唯一のイスラーム教徒たちの国家を建設を目指すものの、1971年のバングラデシュ独立により、建国理念が崩れる
 - →多言語国家における共通語の必要性、国民を作るための「国語(national language)」
 - 憲法には、発布(1973)後15年で公用語をウルドゥー語に切り替えるために努力する、と明記
 - →実現せず、現在も公用語は英語
-
- ウルドゥー語母語話者の割合は、国民の7%程度にすぎない（全人口約1億9000万）
 - 多くの国民は、自らの母語、ウルドゥー、英語を使い分ける生活
 - →誰と話すか、どんな内容を話すかで使う言語を使い分ける社会
 - →→ウルドゥー語に対する感情は複雑だが、必要な言語という位置づけ

パキスタンにおける英語（公用語）

- 社会階層間の格差はあるものの、英語の通用度は高い
- 連邦政府から発出される公式文書はすべて英語
- 憲法、法律の原文は英語
- 私立学校、大学での教育言語も英語（高等教育の教科書はすべて英語）

- 都市部では、英語だけで仕事をするビジネスマンも少なくない

- 南アジア系英語の重要性（いわゆるインド英語、Hinglish）
- →話者人口の多さ（パキスタン、インド、バングラデシュ3カ国だけで約15億人、世界に広がる南アジア系移民）
- 研究対象としての南アジア系英語

パキスタンで重要な外国語

- ▶ ムスリム（イスラーム教徒）の教養としてのアラビア語、ペルシア語、トルコ語
- ▶ 経済的に結びつきが強い、中国語（スィンド州では必修科目）、朝鮮語
- ▶ →日本語の位置づけは？
- ▶ →対日感情は良好、アニメなどを通じた日本文化（およびサブカル）への関心の高まり
- ▶ →インターネット環境の整備により、情報収集が容易に
- ▶ →治安状況の改善により、日本企業の進出が加速
- ▶ →→潜在的な需要はあるが、学習機会が少ない

- ▶ 日本語が学べる機関： National University of Modern Languages（イスラマバード）
- ▶ 在カラチ日本国総領事館

カラチ大学(University of Karachi)

- ▶ パキスタンを代表する国立総合大学の1つ。1948年設立
- ▶ 文学部(Faculty of Arts)の中に、以下の言語を学ぶ学科がある
- ▶ アラビア語、ベンガル語、英語、ペルシア語、スィンディー語、ウルドゥー語
- ▶ 上記以外では、イスラーム史、国際関係、図書館情報、哲学、社会学、マスコミュニケーション学など
- ▶ 英語：修士課程、博士課程に、約20人程度が在籍
- ▶ ウルドゥー語：約200人

パンジャーブ大学(University of the Punjab)

- ▶ ラホール（パンジャーブ州）に1882年設立
- ▶ 文学・人間学部(Faculty of Arts and Humanities)の中に、以下の言語を学ぶ学部がある。
- ▶ 英語英文学、フランス語

- ▶ オリエンタル・カレッジ（1870年設立）では以下の言語（順不同）を学ぶことができる。
- ▶ サンスクリット語、ヒンディー語、パンジャービー語、ウルドゥー語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、トルコ語、カシミール語、日本語
- ▶ （注）日本語は、現在教員不在につき学生もいない。日本語を学ぶことができる大学は、国内に1つだけ（イスラマバードのNational University of Modern Languages）。

カラチ大学、パンジャーブ大学における 英語教育

- 言語としての英語を学ぶインセンティブに乏しい。
- →社会階層間の格差はあるが、大学で学ぶことができる階層では、すでに英語の運用能力があるものが多く、大学であらためて英語を学ぶ必要性を感じていない。
- どちらの大学にも、英語を教える教員にネイティブ・スピーカーがいない。
- 英文学に関心を示すものは少ない。
- 修士、博士課程までのコースが整備されている。
- Queen's Englishが今も残る一方で、いわゆる「インド英語(Indian English / Hinglish)」(北インドのヒンディー語やウルドゥー語を母語とするものが話す英語)が浸透。

大学での評価法（聞き取り調査から）

- ▶ CEFRなどのガイドラインは浸透していない。教員、学生ともに、CEFRの存在を知っているものは、非常に少ない。欧州各国への留学を目指すものを対象に、予備校等で参考になされている程度。
- ▶ 試験を実施した教員の一存で点数を付けるというのが従来からの方法。各大学にシラバスはあるが、内容は、各大学の教員が独自に作成しており、特に基準が定められているわけではない。また、シラバスに従ってどこまで何を理解しているかを具体的に評価する基準も、今回聞き取り調査を実施した限り、存在しない。
- ▶ （参考）基礎教育段階での点数は、日本以上に重視される。特に、Metric、Intermediateの点数は、進路に大きく影響するため、何とか良い点数を得ようとして、教員との議論もいとわない。

外国人向けウルドゥー語教育

- 中国、韓国、インドネシア、マレーシア、アフリカ諸国、日本などから留学生を受け入れ
- 目的：イスラーム学、経済、英語などを学ぶため。ウルドゥー語を学ぶ目的の留学は比較的少ない
 - →定期的に留学生がいなかったため、留学生向けコースが充実しない
 - →決まったシラバスもない。学生に合わせて、その都度授業内容が変わる
- 国際イスラーム大学(International Islamic University) (在イスラマバード)、連邦ウルドゥー大学(Federal Urdu University) (在カラチ) を初めとして、ウルドゥー語教育に重点を置く大学の設立
- 学部学生向けコース：基礎(Certificate)、初級(Diploma)、中級(Advanced Diploma)
 - →修了証書の発行
- 大学院生向けコース：正規の学士課程、修士課程（2年）、博士課程（3年）
 - →学位記の授与

パキスタン人向けウルドゥー語教育

- ほとんどのパキスタン人にとって、ウルドゥー語は母語ではない。
- 小学校以降、必修科目だが、教科書の内容はかなりイスラームに偏る。
- 教科書の内容は、各州の教育省が最終的に決定。近年では、Oxford University Pressなども教科書を作成。どの教科書を用いるかは学校が判断。
- 大学でのウルドゥー語シラバスは、言語史、文学史、文学作品解釈（韻文、散文）を中心に構成。いわゆる言語学はほとんど注目されない。
- 言語学は、聖クルアーンをどのように解釈すべきかを考える手段としての学問。専門用語もアラビア語からの借用語彙を多用。



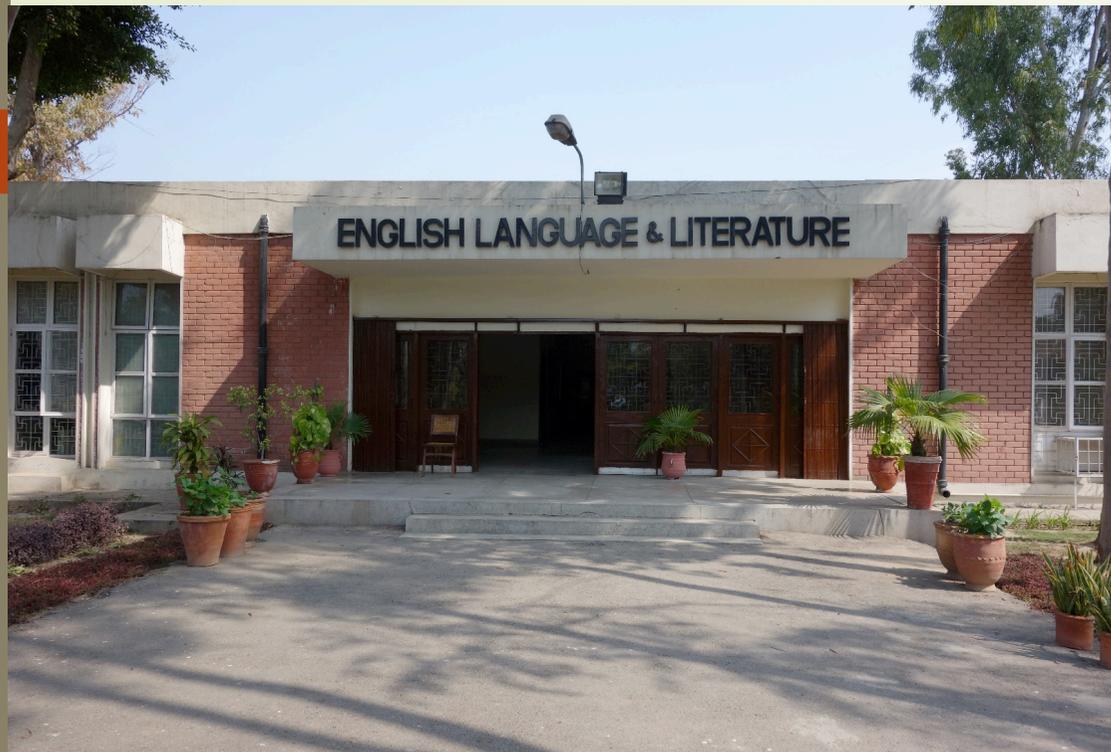
到達度評価をどうするのか

- ▶ 外国語として学ぶ場合、ウルドゥー語の到達度目標をどう設定するか
- ▶ →どこで学んでも同じレベルまで到達できる

- ▶ →日本語母語話者にとって、何が理解困難か
- ▶ →日本の大学レベルで学ぶべき内容をどう決めるのか

- ▶ →パキスタンの大学では、文学に重点が置かれている

パンジャーブ大学 英語英文学部





カラチ大学の一風景



参考文献

- ▶ 黒崎卓 2013 『パキスタンの教育制度の特徴と課題』 科学研究費・基盤研究(B)「南アジアの教育発展と社会変容」(代表・押川文子) 最終報告書pp.1-36所収
- ▶ カラチ大学website <http://www.uok.edu.pk/> (2014年5月閲覧)
- ▶ パンジャーブ大学website <http://pu.edu.pk/> (2014年5月閲覧)